

科目群	科目区分等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
専門科目	1 単位 保育の本質・ 目的	相談援助	鈴木 勲	2 年次	秋

授業のキーワード	ケースワーク、グループワーク、コミュニティーワーク
授業の概要・目的 及び修得させる知識・技能	保育の専門性を活かした保護者への支援や保育領域におけるソーシャルワーク的な機能を遂行していくために必要な知識、技能の習得を目標とする。
履修のアドバイス・ 前提科目等	講義を受けながら、自分の見知を深めていく作業を重視している。また、演習形式の講義となるため、受講者の積極的な参加を期待している。

授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第 1 講	イントロダクション	講義の趣旨説明及びスケジュールの確認を行う。	第 9 講	相談援助の 具体的展開 (1)	計画・記録・評価の方法を理解する。
第 2 講	相談援助の概要 (1)	相談援助の理論、意義、機能について学ぶ。	第 10 講	相談援助の 具体的展開 (2)	社会資源の活用、調整、開発方法について学ぶ。
第 3 講	相談援助の概要 (2)	相談援助とソーシャルワークについて学ぶ。	第 11 講	相談援助の 具体的展開 (3)	関係機関との協働、多様な専門職との連携方法について学ぶ。
第 4 講	相談援助の概要 (3)	保育とソーシャルワークについて学ぶ。	第 12 講	事例検討	子ども虐待の予防と対応方法などについての事例分析を行う。
第 5 講	相談援助の方法と技術 (1)	相談援助の対象について学ぶ。	第 13 講	保育士に求められる相談援助	保育士に求められる相談援助の専門性について学ぶ。
第 6 講	相談援助の方法と技術 (2)	相談援助の過程について理解する。	第 14 講	授業のまとめと振り返り	本講義全体のまとめと振り返りを行う。併せて、定期試験もしくはレポート提出についての説明を行う。
第 7 講	相談援助の方法と技術 (3)	相談援助の技術とアプローチ方法について学ぶ。	第 15 講	定期試験もしくはレポートの提出	
第 8 講	相談援助の方法と技術 (4)	間接援助技術や基本資料の作成方法を学ぶ。	評 価 方 法		出席 60%、定期試験 40%の配分とする。また、毎講義リアクションペーパーの提出を持って出席とする。
備 考 (関連する資格・試験等)		授業展開は予定であり、授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。			
使用する教科書 (必ず購入してください)			参 考 文 献		
大嶋恭二・金子恵美編著『相談援助』建帛社 2011 年			随時、授業中に紹介する。		